

健康で文化的な都市  
-住み続けたいまち、ふるさと国分寺-  
を目指して市民自治の拡充と団体自治の充実を進めます

# 国分寺市自治基本条例



## 国分寺市自治基本条例とは？

- 分権社会にふさわしい「自治推進のための基本理念」及び「市政運営の基本原則」を市民の視点から定めた条例です。
- 地方自治法等に定める地方自治制度を基本に、市の特性を活かし、参加と協働による国分寺づくりを推進するための制度や市民との関係などを市政運営のルールとして定め、それを一覧できる条例です。

# 国分寺市の自治基本条例に定めている内容



## 自治体運営の目標・理念を定めています

- ①自治の基本理念を明確にすること、②参加、協働、情報の共有等の仕組みをつくること、③市政運営の基本原則を定めることを掲げ、これによって、市民主権を基本とする自治の実現を図ることとしています。
- 市民自治の推進・拡大のための基本原則を定めた総合条例で、条例を体系化した場合の条例の頂点に位置付けられる条例となります。

### 【前文】

- 第1条 (目的)
- 第2条 (定義)
- 第3条 (基本理念)
- 第35条 (最高規範性等) …自治基本条例の尊重、法令の自治解釈権、自治基本条例の見直し
- 第36条 (委任)

## 「市民等」に関する条文

- 国分寺市自治基本条例は、下記のように「市民等」の範囲を広く定義しています。その理由は、次のとおりです。
- ① 自治の主体としての市民は、個人・法人を問わず税の負担やまちの機能としての企業活動やサービス提供、また、NPOの活動のように非営利性をもった活動を営み、このまちの活力の原点となっていること。
- ② 自治の主体としての市民は、憲法及び地方自治法に規定する「地方自治」の担い手であり、これをさらに発展させることが国分寺市の将来に必要なこと。

- 第2条 (定義)
- 第5条 (参加と協働における市民等の責務)
- 第8条 (参加と協働における不利益取扱いの禁止)
- 第10条 (地域コミュニティ)
- 第12条 (情報公開) 第1項…公開請求の権利

### 市民

- 住民
- 市内で働く者
- 市内で学ぶ者
- 市内で公益的な活動を行う個人

### 市民等

- 第4条 (参加の権利)
- 第15条 (個人情報の保護) 第2項…自己情報の開示、訂正、削除等の権利

### 事業者等

- 市内で事業活動を行う団体
- 市内で公益的な活動を行う団体

## 「市」に関する条文

- この基本条例を定めると、その効果として①市政運営の仕組みが分かりやすくなる、②市政運営の根拠が明確になる、③市民参加と協働のルールができる、④情報の共有化が進むなど、全体として市民自治の推進・拡大が期待されます。
- したがって、現在の条例・規則、計画、制度について、自治基本条例の主旨に沿った整理をするとともに、条例の主旨を反映した具体的な取り組みを積極的に進める必要があります。特に、「参加、協働、情報の共有の仕組みづくり」は重点的に取り組むこととなります。
- 条例制定の効果は、半年・1年で評価することは難しいと考えられます。しかし常に自治基本条例の主旨に沿ったルール化を目指すことにより、国分寺市は市民に開かれた市、信頼される市として、市民満足度が高く、市民自治が推進されたまちとして発展することが期待できます。
- 第四次長期総合計画の基本構想の実現のため、国分寺市自治基本条例は、将来にわたって重要な役割を果たします。
- この条例は、今後の市の一般条例の制定や計画策定の指針となります。
- 「市政運営の基本原則」を規定することによって、分権社会における国分寺市の自己決定・自己責任を明確化することができます。

### 議会

- 地方自治制度においては、住民の直接選挙で選ばれた市長と議員による二元代表制が採られており、両者は相互にけん制し、また均衡を保ちながら住民の福祉の増進を図る役割を担っています。第5章「議会の役割と責務」に規定する4条項については、この二元代表制を意識し、市民からの意見も聴きながら議会において検討し、議会自らの意思と判断をもってその条項案を作成し、この条例に追加するための修正案を議員提案し、この条例に組み込んだものです。

- 第16条 (議会の設置)
- 第18条 (議会の情報公開)
- 第17条 (議会の責務)
- 第19条 (議員の責務)

- 第6条 (参加と協働の推進)
- 第7条 (参加と協働の方法) …方法、連携
- 第9条 (協働のための基盤整備)
- 第12条 (情報公開) …情報公開の総合的推進
- 第13条 (説明責任)
- 第14条 (情報の共有)
- 第15条 (個人情報の保護) …情報の管理、権利利益侵害時の措置
- 第26条 (市政運営の基本原則)
- 第27条 (計画的市政運営)
- 第28条 (財政運営) …健全財政、財政公表
- 第29条 (組織編成)
- 第30条 (行政評価) …評価の実施、評価の反映
- 第31条 (意見、要望及び苦情への対応) …権利利益の擁護等
- 第32条 (公益の損失の防止)

### 市長

- 第11条 (住民投票)
- 第20条 (市長の責務) …自治基本条例の遵守、職員の育成
- 第21条 (市長等の就任時の宣誓) …市長・副市長の宣誓
- 第22条 (行政委員会の責務と委員の選任)
- 第24条 (附属機関の委員の選任)

### 職員

- 第25条 (職員の責務)

### 行政委員会

- 第22条 (行政委員会の責務と委員の選任)

### 教育委員会

- 第21条 (市長等の就任時の宣誓) 第2項…教育長の宣誓
- 第23条 (教育委員会の役割と責務)

- 第33条 (国及び他の自治体との関係) …他の自治体との連携等
- 第34条 (外国人の支援及び国際交流の推進) …外国人への支援等

## 制定の意義（なぜこの条例が必要なの?）

- 国分寺市自治基本条例は、市民が生き生きと暮らし活動できるまちの実現を図るためには、市民自治の推進・拡大が必要であり、これが大きな制定意義です。
- 「市民自治の推進・拡大」のためには、「参加、協働、情報の共有等の仕組みづくり」と「市政運営の基本原則の定め」が必要です。
- 「参加、協働、情報の共有等の仕組みづくり」によって、より多くの市民の視点から市政運営が行われるとともに、市政運営の透明化を図ることができます。
- 情報公開、個人情報保護、計画的市政運営、財政運営、組織編成、行政評価など「市政運営の基本原則」を規定することによって、分権社会における国分寺市の自己決定・自己責任を明確化することができます。



### 国分寺市自治基本条例 平成20年12月2日条例第43号



#### 目次

##### 前文

- 第1章 総則（第1条・第2条）
  - 第2章 基本理念（第3条）
  - 第3章 参加と協働（第4条―第11条）
  - 第4章 情報の共有等（第12条―第15条）
  - 第5章 議会の役割と責務（第16条―第19条）
  - 第6章 執行機関の役割と責務（第20条―第25条）
  - 第7章 市政運営（第26条―第34条）
  - 第8章 最高規範（第35条）
  - 第9章 委任（第36条）
- ##### 附則

私たちのまち国分寺は、国分寺崖線や湧水群、史跡武蔵国分寺跡、さらには新田開発以降の人々の暮らしの中から生まれた農のある、緑豊かな住宅都市として発展を続けています。私たちは今、先人から受け継いだこのまちに住み、働き、学び、活動しています。私たちは、このまちを誇りにし、国分寺らしさを大切にしながら、福祉や環境、教育や文化など様々な分野において新たな個性を創造し、「住み続けたいまち、ふるさと国分寺」のまちづくりを、自らの手で進めたいと思っています。

私たちは、地域のことは市民自らが責任をもって決めていくことが市民自治の基本であり、国分寺市が自主性、自立性を高めることが地方主権を確立するために不可欠であると考えています。

私たちは、市民が主権者であり、国分寺市は、市民の信託によって創られてきたものであることを認識し、日本国憲法に基づいて、平和を希求し、人権を尊重し、男女平等のもと市民が生き生きと暮らし活動できるまちの実現を目指し、情報の共有、参加と協働を通じ、真の市民自治を確立し、地方自治の本旨を国分寺市において実現するため、ここに、国分寺市の最高規範として、自治基本条例を制定します。

#### 第1章 総則

##### （目的）

第1条 この条例は、国分寺市（以下「市」といいます。）における自治の基本理念を明らかにするとともに、参加、協働、情報の共有等の仕組み及び市政運営の基本原則を定めることにより、市民主権を基本とする自治の実現を図ることを目的とします。

##### （定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによります。

- (1) 住民 市の区域内に住む者をいいます。
- (2) 市民 前号に掲げる者又は市内で働く者、学ぶ者若しくは公益的な活動を行う個人をいいます。
- (3) 事業者等 市内で事業活動又は公益的な活動を行う団体をいいます。
- (4) 参加 市政へ市民の意思を反映させるため、政策の立案、実施及び評価のそれぞれの過程に市民が主体的にかかわることをいいます。
- (5) 協働 市民及び事業者等（以下「市民等」といいます。）と市が対等の立場で能力を分かち合い、共通の目的の実現に向けて協力して取り組むことをいいます。

#### 第2章 基本理念

##### （基本理念）

第3条 市民と市は、主権者である市民の意思が活かされる市政、市民の意思に基づいて自主的かつ自立的に運営される市政を目指します。そのため、市は、知る権利を保障し、参加と協働を推進します。

#### 第3章 参加と協働

##### （参加の権利）

第4条 市民は、年齢、性別等にかかわらず、自らの意思を市政に反映させるため、参加の権利を有します。

##### （参加と協働における市民等の責務）

第5条 市民等は、市民自治を推進する責任が自らにあることを認識し、参加と協働に当たっては、自らの言

動に責任を持つとともに、互いの意見を尊重するように努めます。

#### (参加と協働の推進)

第6条 市は、次に掲げる政策の立案、実施及び評価のそれぞれの過程において参加の権利を保障し、協働を推進します。

- (1) 基本構想及び基本計画その他の基本的政策を定める計画並びにこれらに基づく実施計画（以下「基本構想及び基本計画等」といいます。）の策定
- (2) 市政の基本的な政策に関する条例及び市民等に義務を課し、又は権利を制限する条例の制定改廃（地方税の賦課徴収金に関するものを除きます。）
- (3) 市民生活又は地域に影響を及ぼす重要な施策及び制度の導入
- (4) 重要な市の施設の設置又は運営に関する方針及び計画の策定

#### (参加と協働の方法)

第7条 市は、前条に定める参加の権利を保障するため、事案に応じ次の各号のいずれかの方法を用います。

- (1) 市の附属機関への委員としての参加
- (2) 公聴会、説明会、懇談会等への参加
- (3) 個別の施策又は課題について検討を行うことへの参加
- (4) パブリック・コメントへの参加
- (5) アンケート調査その他必要と認める方法への参加

2 市は、前条に定める協働の推進に当たり、市民活動団体、地域コミュニティ等との連携を図ります。

#### (参加と協働における不利益取扱いの禁止)

第8条 市民等は、参加又は協働をすること又はしないことによって不利益な取扱いを受けることはありません。

#### (協働のための基盤整備)

第9条 市は、協働の推進に当たり、多様で開かれた場又は機会の創設、拡大等協働のための基盤整備に努めるとともに、市民活動団体、地域コミュニティ等に対して、その自主性を尊重しつつ、公の施設の積極的な活用等必要な支援を行うものとします。

#### (地域コミュニティ)

第10条 市民等は、地域の課題を地域で解決し、安全で安心して暮らせるきずなのあるまちを目指し、地域コミュニティづくりに努めます。

#### (住民投票)

第11条 市長は、市政に関する重要事項について、広く住民の意思を確認するため、住民投票を実施することができます。

2 市長は、住民投票の結果を尊重しなければなりません。

3 住民投票に付すべき事項、参加できる者の資格その他住民投票の実施に関し必要な事項は、条例で別に定めます。

### 第4章 情報の共有等

#### (情報公開)

第12条 市民等は、市が保有する公文書の公開を求める権利を有します。

2 市は、前項の権利を保障し、公正で透明な市政の実

現を図るため、市が保有する公文書その他の情報の公開を総合的に推進しなければなりません。

#### (説明責任)

第13条 市は、政策の立案、実施及び評価のそれぞれの過程において、その内容を市民等にわかりやすく説明する責任があります。

#### (情報の共有)

第14条 市は、市民自治の理念を実現するため、市民等に対し市政に関する情報を積極的かつ迅速に公表し、市民等と情報の共有を図らなければなりません。

#### (個人情報の保護)

第15条 市は、個人の権利及び利益が侵害されることのないよう個人情報の収集、保管及び利用について、必要な措置を講じなければなりません。

2 市民は、市が保有する自己に関する個人情報の開示、訂正、削除及び利用中止を求める権利を有します。

3 市は、市が保有する個人情報の不適切な取扱いにより個人の権利及び利益が侵害されたときは、速やかにその状況を調査し、原因を究明するとともに、必要な措置を講じなければなりません。

### 第5章 議会の役割と責務

#### (議会の設置)

第16条 市は、市民の信託に基づく代表者による議事機関として、議会を設置します。

#### (議会の責務)

第17条 議会は、この条例の基本理念に基づいて、効率的かつ効果的な議会運営に努め、市民の信託に応えなければなりません。

2 議会は、議員によって構成された意思決定機関であり、その権限を行使し、市政運営の監視、政策の提案、決定等を行わなければなりません。

#### (議会の情報公開)

第18条 議会は、その保有する情報を市民に迅速かつ適切に提供し、情報公開を総合的に推進することにより、開かれた議会運営に努めるとともに、個人情報を保護しなければなりません。

2 議会は、わかりやすい議会運営を進めるとともに、意思決定過程を明らかにすることに努めなければなりません。

#### (議員の責務)

第19条 議員は、市民の代表者として誠実に職務を遂行しなければなりません。

2 議員は、審議能力、立法能力等を高めるための研さんに努めなければなりません。

### 第6章 執行機関の役割と責務

#### (市長の責務)

第20条 市長は、この条例の基本理念及び市政運営の基本原則を遵守して市政を推進しなければなりません。

2 市長は、地方主権の確立を担う創造性豊かな職員の育成を図り、効果的に市政を運営しなければなりません。

#### (市長等の就任時の宣誓)

第21条 市長は、就任に当たっては、その地位が市民の信託によるものであることを深く認識し、この条例の基本理念の実現と地方主権の確立のため、公正かつ誠

実に職務を執行することを市民に宣誓しなければなりません。

2 前項の規定は、副市長及び教育長の就任について準用します。

#### (行政委員会の責務と委員の選任)

第22条 行政委員会は、その機能を十分に果たすとともに、この条例の基本理念に基づいて運営されなければなりません。

2 市長は、教育委員会委員、監査委員及び固定資産評価審査委員会委員の選任に当たっては、この条例の基本理念に基づき、公平性及び透明性の確保に努めなければなりません。

#### (教育委員会の役割と責務)

第23条 教育委員会は、児童、生徒をはじめすべての市民に対する教育環境の充実を図るとともに、教育及び文化の発展に寄与するよう努めなければなりません。

#### (附属機関の委員の選任)

第24条 附属機関の委員の構成については、原則として、市民から公募した委員を加えるものとし、その選任に当たっては、公平性及び透明性の確保に努めなければなりません。

#### (職員の責務)

第25条 職員は、全体の奉仕者であることを自覚し、法令及び条例等の規定を遵守するとともに、能力の向上に努め、この条例の基本理念及び市政運営の基本原則に基づいて職務を公正かつ誠実に執行しなければなりません。

### 第7章 市政運営

#### (市政運営の基本原則)

第26条 市は、この条例の基本理念に基づき、総合的かつ計画的な市政運営を行わなければなりません。

#### (計画的市政運営)

第27条 市は、基本構想及び基本計画等を市政運営の基本原則に基づき策定し、実施するとともに、新たな課題に対応できるよう見直しを行わなければなりません。

#### (財政運営)

第28条 市は、予算の編成及び執行に当たっては、基本構想及び基本計画等に基づき、行政評価の結果を踏まえ、健全な財政運営に努めなければなりません。

2 市は、予算の執行及び決算、財産管理その他の財政に関する状況について、市民等が具体的に内容を把握できるようわかりやすい資料を作成し、公表しなければなりません。

#### (組織編成)

第29条 市は、市民等にわかりやすく、市政運営が迅速かつ効果的に行われる組織を編成しなければなりません。

#### (行政評価)

第30条 市は、効果的かつ効率的な市政運営を行うため、毎年度行政評価を実施しなければなりません。

2 市は、前項の行政評価の結果を公表し、政策の立案及び実施、予算編成、組織編成等に反映させなければなりません。

#### (意見、要望及び苦情への対応)

第31条 市は、市民等からの意見、要望及び苦情を受け

たときは、速やかに調査し、責任をもって応答することにより、市民等の権利及び利益の擁護に努めなければなりません。

2 市は、市民等の権利及び利益の擁護のため、オンブズパーソンを設置します。

#### (公益の損失の防止)

第32条 市は、市政運営上の違法な行為による公益の損失を防止し、公正性と市民等の信頼を確保するため、必要な措置を講じなければなりません。

#### (国及び他の自治体との関係)

第33条 市は、他の自治体との間で共通する課題の解決を図るため、連携、協調及び交流に努めなければなりません。

2 市は、国及び東京都と対等かつ協力の関係にあることを踏まえ、それぞれの役割について相互理解と連携に努め、必要に応じて自治基盤の確立に向けた国等への働きかけを行うよう努めなければなりません。

#### (外国人の支援及び国際交流の推進)

第34条 市は、市内の外国人が安心して生活できるよう支援に努めるものとします。

2 市は、市民等とともに国際交流の推進に努めるものとします。

### 第8章 最高規範

#### (最高規範性等)

第35条 この条例は、市の定める最高規範であり、市は、条例等を制定改廃するに当たっては、この条例の基本理念を尊重しなければなりません。

2 市は、市に関する事案について法令を解釈し、又は運用するに当たっては、地方自治の本旨及びこの条例の基本理念に基づいて、主体的に判断するよう努めなければなりません。

3 市は、社会状況の変化及び市民自治の確立に向けた取組状況を勘案し、この条例の見直しを行うものとします。

### 第9章 委任

#### (委任)

第36条 この条例の施行について必要な事項は、別に定めます。

#### 附 則

#### (施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において規則で定める日から施行します。

(平成21年規則第9号で平成21年4月1日から施行)

#### (経過措置)

2 この条例の施行の際、現に存する条例等は、この条例の基本理念に基づいて規定されたものとみなします。この場合において、この条例の規定と整合性を図る必要があると認めるときは、速やかに必要な措置を講じなければなりません。

編集・発行 国分寺市 政策部 政策法務課

国分寺市戸倉一丁目6番地1

電話 042-325-0115 (直通)

FAX 042-325-1380

e-mail: houmu@city.kokubunji.tokyo.jp

(20090331・0001/05799)